

第1回遠野市進化まちづくり検証委員会

— 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 平成25年5月30日(木)午後4時05分～午後5時10分
- 2 場所 あえりあ遠野・会議室(こぶし)
- 3 出席者

(1) 委員

委員長	山田晴義	岩手県立大学名誉教授、宮城大学名誉教授
委員	稲葉比呂子	前岩手県秘書広報室長
委員	大泉太由子	(公財)東北活性化研究センター調査研究部専任部長兼主席研究員
委員	小野寺純治	岩手大学地域連携推進センター副センター長
委員	北原浩平	東京都武蔵野市市民部市民活動推進課長
委員	工藤洋子	前株ジョイス監査役会事務局、岩手県監査委員
委員	吉野英岐	岩手県立大学総合政策学部教授

(2) その他

① 関係団体代表者

- ア 遠野市区長連絡協議会
内館充幸 会長
- イ 遠野市婦人団体協議会
海老糸子 会長
- ウ 遠野市交通指導隊
佐々木清美 隊長
- エ 遠野市消防団
菊池岩男 副団長
- オ 遠野市民生児童委員協議会
菊池一晃 会長

② 遠野市

- 本田敏秋 市長
- 及川増徳 副市長
- 菊池文正 経営企画部長
- 飛内雅之 経営企画部まちづくり再生担当部長
- 古川憲 市民センター所長
(区長連絡協議会等所管部長)
- 宮田実 市民センター市民協働課長
(区長連絡協議会、交通指導隊、防犯隊所管課長)
- 菊池幸司 市民センター生涯学習スポーツ課長
(婦人団体協議会、老人クラブ連合会所管課長)
- 佐藤浩一 経営企画部企画・秘書広報担当課長
- 澤村一行 経営企画部管理情報担当課長
(庁舎整備所管課長)

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 日程説明
- 5 内容説明
 - (1) 遠野スタイルによるまちづくり 2013 について
 - (2) 遠野市地域経営における検証指針について
 - (3) 遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会の提言書について
 - (4) 意見交換等
- 6 閉会

(配布資料)

- 1 遠野スタイルによるまちづくり 2013 (資料No.1)
- 2 遠野市地域経営における検証指針について (資料No.2)
- 3 遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会の提言書について (資料No.3)

(議事概要)

1 開会

○菊池文正 経営企画部長

ただ今から第一回遠野市進化まちづくり検証委員会を開催させていただきます。
はじめに遠野市長から皆様にごあいさつ申し上げます。

2 市長あいさつ

○本田敏秋 遠野市長

大変ご苦勞さまでございます。今日、午後1時30分から基調講演、そして事例発表、当初きちんとご説明申し上げておりませんでしたけれども、各委員の皆様を市民の皆様にもご紹介するという中におきまして、対応いただきまして大変ありがとうございました。

山田委員長さんからも先ほどの場で、三つ、四つとポイントを挙げて、市民の皆様呼び掛けていただきましたので私の方からはあえて申し上げることはないわけですが、事例発表二つにもありましたとおり、地域がまさに地方の一つの縮図として遠野市も典型的にそれぞれの地域と同じように表れているのではないかと考えております。また、今日はそれぞれの地域づくりにかかわる団体の関係者の皆様にも出席をいただいておりますけれども、さまざまな組織、団体も、言うところの制度疲労と申しますか、そのような中でもがいているというのが一つの現実ではないかなと考えております。

ただ、まだ私はいろんな話を聞きますと遠野はまだ健全なのかな、まだ地域のコミュニティとしてちゃんと成り立っているのかな、というような思いはあるわけでありましてけれども、この健全なコミュニティがこうしてまだ機能しているうちに、これから10年、あるいは20年、さらには30年、といったものを見据えた新たな仕組みづくりといったものをやっていかなければならないのではないかなと考えております。すっかり崩壊してしまったコミュニティの中で今後どうすると言っても、これはなかなか難しいと思うわけでありまして。職員にも市民にもよく話をしていますが、2040年、あと30数年なわけでありまして。遠野市の人口は1万7,000人ということが示されているわけでありまして。今3万人をちょっと切っておりますので、さらにもう1万人以上も減るといことが言われているときに、今までの制度、あるいは今までの組織、今までの考え方ではやはりまずいのではないかなと思ひまして、このような形で第二次進化まちづくり検証委員会を設置し、先生方をお願いを申し上げた次第でございます。

山田先生、工藤委員、小野寺委員は引き続きであります。吉野委員、北原委員、稲葉委員、大泉委員はそれぞれ新たにお問い合わせをすることです。先ほど吉野委員に「今日、消防の方も来ていましたね。これは本当にいいことですよ」というお話をされました。そのような中でそれぞれの立場の人間が、自分のところだけがよければいいではなくして、総合的な中における遠野のまちづくりというものの仕組みづくりに取り組んでまいりたいと思っておりますので、2年近くのお付き合いいただくこととなりますが、先生方には大変忙しいところ現場にも是非入っていただければということをお思っているところでございますので、よろしくお願ひいたします。これから我々も一緒になって考えてまいりますので、よろしくご指導いただきますようお願いいたします。ありがとうございます。

3 委員紹介

○菊池 経営企画部長

それでは、次に各委員の皆様をご紹介を申し上げることになりますが、先ほど急きよ会場で対応いただきましてありがとうございます。

それでは委員の皆様から一回目ということでございますので、山田委員長から順に一言ご挨拶をいただきたいと思います。

○山田晴義 委員長

次第に書いていないから今日はそういう機会はないのかなと思っておりましたら大変たくさんございまして、先ほどの続きを申し上げたいと思います。私は何十年間、過疎地域であるとかいろいろなところを回ってみまして、コミュニティのあり様とか考えてきました。しかしながら、多くの地域でいろいろな提案はするのですが、果たしてそれが実現できるかということになってくるのです。非常に不安になってくることが多いわけですが、この遠野の場合は、市長が言われましたように、市民あるいは市民コミュニティの力もまだまだかなり強いものがある。そういった点では私もやりがいがありますし、それから提案のし甲斐があらうかと思っておりますので、そういった意味では頑張りたいなと思っております。それからもう一つは、小野寺委員それから工藤委員はご存じだと思いますが、第一次で私共が申し上げたこと、これはもう私共が独自に申し上げたというよりは、市長が言われたように対話の中で答えが生まれてきたわけではありますが、それを迅速に対応してくださっている。これは非常に大事なことで、皆様がこれからご発言されることは必ずや市は実現してくださるものと私は確信できると思っておりますし、またそういった意識でご協力をいただければと思っております。先ほど急でありましたので言い忘れたのはその一点でございますのでこれを捕捉させていただいてごあいさつと代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして稲葉比呂子委員お願いいたします。

○稲葉比呂子 委員

稲葉比呂子と申します。今年の3月31日まで岩手県の秘書広報室長を務めておりました。平成9年と10年には遠野地方振興局に勤めておりました、地域政策のようなところは市民の皆様と一緒にやってきて宮守村の皆さんとも一緒にやってきたのが記憶に残っておりますし、19年には県南局にも勤務しておりましたので、その当時から遠野地域にお世話になったという経験がございます。

今回の大きなテーマになります「コミュニティ」ですが、私も奥州市水沢区に住んでおまして、住んでいる地域の行政区があります。自治会長さんがいて区長さんがいらっしゃるというところなのですが、その会計監査をやっておまして、それも3月で辞めましたけれども、やっていましたので地域の組織は結構いろいろあるのだけれども、なかなかそれがうまく動いていないというような形と、あと参加する人としらない人がいるというようなところも実感したりもしていますし、私ももう60歳ですので、これから地域をどう守っていくのかというのは大きな課題だと感じておりますので、皆さんと一緒に考えていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして大泉太由子委員でございます。

○大泉太由子 委員

よろしくお願いいたします。私は東北活性化研究センターというところに所属しております。東北7県の地域経済や地域づくりの調査研究をしている機関なのですが、その前身に東北開発研究センターというのがあったのですが、そこにいたときに山田晴義先生にご指導いただきながらいろいろな中

山間地域の地域コミュニティについての調査研究をいたしました。それを遠野市のために役立てるようにと山田先生のご指示があったのかと思ひまして、それで参加させていただきました。

本当にコミュニティの崩壊寸前のところもいろいろ見てまいりましたし、そうは言っても自分たちの力で頑張っていこうというコミュニティもいろいろ見てまいりました。今日、遠野市のコミュニティの事例を見ましたら、本当によく頑張っていらっしゃるなど、本当によくやっていたらいいなと思ひましたけれども、将来を見据えたときにきちんと住民自治の形をどうつくっていくか、新しい仕組みをどうつくっていくかということで、やはり今から考えていかなければならないと思ひます。こちらのお仕着せでこうというのではなくて、できるだけ本当に住民の皆さんからこういうところが困っていると、こういうところを解決するにはどうしたらいいかという声を聞きながら、みんなで検討出来たらと考えておりました。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして小野寺純治委員お願ひいたします。

○小野寺純治 委員

小野寺でございます。引き続きお世話になります。よろしくお願ひいたします。

私は今、大学で産学官連携による地域振興ということを命題にいろいろなことをやっております。最近イノベーションという言葉が良く聞かれますけれども、イノベーションという言葉は日本では技術革新となっておりますけれども、あれは本来は違ひまして「社会変革」、非効率となった古いシステムから新しいシステムに変えていくということになりますので、まさに遠野市さんのこの取り組みというのは社会のイノベーションを起こしていく、多分、市長さんはそれを狙っているのだろうというように思ひます。そのときは、一方的に押し付けるのではなくてみんなで議論しながらステークホルダーといひますか、利害関係の方が集まっているいろいろな観点から自分の思ひを主張して、その中でお互いの意見をぶつけあって納得して変わっていく。そのときに新しいものが生まれてくるというように思ひておりました。

今回、進化まちづくりという名前になっていますけれども、私さっきから進む進化ではなくて深くなる深化かなと思ひておりました。第1期は「進む」ということで第三セクターを検証させていただきました。今回はそうではなくて、遠野市の多様性とか、そういうコミュニティを深く掘り下げて、そういった中で新しい深層の中にある水脈を見つけて新しいまちづくりをしていく、そのような動きを一緒になってできればいいかなと思ひておりましたので、引き続きお世話になります。よろしくお願ひいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして北原浩平委員よろしくお願ひします。

○北原浩平 委員

はじめまして。東京武蔵野市から参りました北原浩平でございます。

私は東京都武蔵野市の市民活動推進課長ということで、まさに都市部ではございますが、私は武蔵野市の地域コミュニティ、それからNPOなどの市民活動の支援、それから文化事業などを所管している担当でございます。先ほど基調講演にもございましたが、少子高齢化、それから人口減というのは、日本全体の課題ということで、当然、都市部の自治体についてもそういった影響をこれから受けてまいります。しかしながら、そのタイミングであるとか、時期とかについては若干ずれがあるのかなというように考えておりました。今日、事例発表を聞いて遠野の密着したコミュニティのあり方、非常に参考にさせていただきました。都市部では、武蔵野市は町内会、自治会というのは組織されていない全国で稀な自治体でござい

ます。その代わり、昭和40年代当時にコミュニティ構想というものを立てまして、そこで自主参加、自主企画、自主運営という三原則のもとに現時点では16のコミュニティ協議会を組織をして、そこにコミュニティセンターという中核施設を配置して、コミュニティ活動が行われています。しかしながら、少子高齢化の波の中で同様の課題を抱えておまして、担い手の固定化であるとか、高齢化であるとか、都市部住民の近隣関係の希薄などによってなかなかコミュニティがうまく回らなくなってくるというような、また違った観点での悩みを抱えております。遠野の事例に関する勉強もしながら、そして同時期に武蔵野市でもこういった委員会を立ち上げる予定でございまして、その両方の観点から是非、双方にとっていい解決策が見つかるような発言ができればいいかなと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして工藤洋子委員をお願いします。

○工藤洋子 委員

工藤洋子でございます。遠野市進化まちづくり検証委員会第二ステージの委員に、また任命いただいて大変光栄であるとともに、また大好きな遠野に伺えることを大変喜んでおります。

今回は少子高齢化、人口減少などの問題に取り組むわけですが、これは最終的には私たちが年を取っても地域で幸福に暮らすために地域コミュニティをどう活性化するかという切実な問題でありまして、実は遠野市だけではなくて私たち全員にとって、又日本の将来にとって本当に大きなテーマだと思っております。特に私は今93歳の母と一緒に暮らしておまして、日々人が老いるということの現実を直視せざるを得ない状況にあり、このテーマは私自身にも降りかかるいわば自分の問題として捉えております。その解決のために、私が今まで学んできた知識や経験を生かし、一生懸命考えていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして吉野英岐委員をお願いします。

○吉野英岐 委員

岩手県立大学の吉野でございます。私は県立大学が出来てこちらに来ましたので、16年目になります。大学では社会学を専攻していますので、地域社会論と住民生活論という割と今日のテーマに近いところで教えたりしております。

もともとコミュニティの研究をしているわけですが、たまたま2011年の震災の後に釜石市で復興まちづくり計画のアドバイザー会というのに入れてもらいまして、コミュニティの観点から復興まちづくりを進めるいろいろな意見を出してくれと言われていたりします。実はその釜石市がたいへん厳しい中からもう一回地域をつくっていくという、ある意味では大きな試練を迎えていますけれども、ある意味ではそれによって見えてきた部分も沢山ありました。まちづくりを見ていくと、本当にこの自治会の力というのは、これまであまり見えなかったところも逆にああいう非常事態になると、どうやると人がまとまって物事を解決してまた人に手を差し伸べることができるのか、ということも大分現地で学ばせていただきました。いろいろそのときに気づいたことは、実は釜石も中山間地域を沢山持っているのですけれども、一つは、財産を守るという意味から消防団の力が非常に大きかったことを感じております。消防団というのは意外と上はすごく統合して変わったのですけれども、下は変わっていないです。あるいは分団から部というのはあまり変わってなくて、小さい単位で頑張っているのが分かりました。もう一つは、人を元気にするのはお祭りなどの芸能の力。本当にこれから復興とか地域をつくっていくときの希望になる。各被

災地の首長さんたちも、ぜひお祭りを復活させたいというようなこともおっしゃっておられましたけれども、皆様に希望を与える力として地域で根付いてきているお祭り、芸能というものをどうやって伝えていくか。皆さん悩んでいるのだけれども、この話をする则皆さん喜んで乗ってこられまして、やはりいいものが残っているのだから、これを次世代に繋げていきたいということもありました。それをうまくコントロールしている、マネジメントしているのが「自治会」ということも大分学びましたので、そういったことも含めながら地域を守っているいろいろな有形、無形な財産がどうやってうまく繋げていって、その地域の誇りになって、ここに住んで良かったなというまちづくりに繋げていけるようになればと思っています、お役に立てればいいなと思っています。お願いいたします。

○菊池 経営企画部長

以上7名の委員の皆様へ新たな検証作業を行っていただくこととなります。どうぞよろしくお願いいたします。

次に本日参加いただいております関係団体の皆様をご紹介申し上げます。

遠野の自治会、あるいはまちづくりに非常に重要な役割を担っていただいている方々です。

遠野市区長連絡協議会会長の内館充幸さんです。

○内館充幸 市区長連絡協議会長

ただ今ご紹介いただきました区長会の内館でございます。あわせて老人クラブの事務局も担当しておりますので今後ともどうぞご指導よろしくお願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして遠野市婦人団体協議会会長の海老糸子さんです。

○海老糸子 市婦人団体協議会長

どうぞよろしくお願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして遠野市消防団副団長の菊池岩男さんです。

○菊池岩男 市消防団副団長

菊池岩男です。今日は団長が所用で出られませんので、代理できましたのでよろしくお願い致します。

○菊池 経営企画部長

続きまして遠野市民生児童委員協議会会長の菊池一晃さんです。

○菊池一晃 市民生児童委員協議会長

どうぞよろしくお願いいたします。

○菊池 経営企画部長

続きまして遠野市交通指導隊長の佐々木清美さんです。

○佐々木清美 市交通指導隊長

佐々木です。よろしくお願い致します。

○菊池 経営企画部長

なお、本日遠野市自主防災組織連絡会長の吉田様、そして遠野市老連の会長の浅沼様、遠野市防犯隊長の菊池様は欠席となっておりますのでよろしくお願い致します。

次に遠野市側の出席者をご紹介申し上げます。

改めまして本田遠野市長です。

○本田 市長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

及川増徳副市長です。

○及川増徳 副市長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

飛内雅之まちづくり再生担当部長です。

○飛内雅之 まちづくり再生担当部長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

古川 憲市民センター所長です。

○古川 憲 市民センター所長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

宮田 実市民協働課長です。

○宮田 実 市民協働課長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

菊池幸司生涯学習スポーツ課長です。

○菊池幸司 生涯学習スポーツ課長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

当検証委員会の事務局となります佐藤浩一企画・秘書広報担当課長です。

○佐藤浩一 企画・秘書広報担当課長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

管理情報担当課長の澤村一行です。

○澤村一行 管理情報担当課長

よろしくお願ひします。

○菊池 経営企画部長

最後に私、経営企画部長の菊池文正です。

どうぞよろしくお願ひいたします。

4 日程説明

○菊池 経営企画部長

続いて本日の日程説明に入ります。

だいぶ時間が経過しておりますので、ポイントを絞って申し上げます。

この後、内容説明に入りますが、はじめに遠野スタイルによるまちづくりについて説明申し上げます。
次に遠野市地域経営における検証指針についてのご説明をいたします。

その後、各委員の質疑を頂戴いたしまして、およそ午後5時をめぐりに進めてまいりたいと思います。
よろしく願いいたします。

これより進行については山田委員長をお願いをいたしたいと思っております。

5 内容説明

(1) 遠野スタイルによるまちづくり 2013 について

○山田 委員長

それでは早速進めさせていただきます。

次第にあります5の内容説明とありますが最初に「遠野スタイルによるまちづくり 2013」についてご説明をお願いいたします。

○菊池 経営企画部長

それでは私の方からご説明を申し上げます。

最初に遠野市の岩手県における位置については、ご承知の通りでございまして、ほぼ中央に位置しております。

次に遠野市の土地利用についてでございます。東西南北約38キロメートル、面積は825平方キロメートル東京23区がすっぽり入る状況でほとんどが山林となっております。宅地は全体の1%となっております。

次に先ほどから人口の話がございました。平成22年の国土調査では2万9,331人、生産年齢人口は1万5,914人となっております。7年後の平成32年は2万5,000人強、さらに先ごろ春に発表された人口推計では27年後の平成52年は1万7,700人というような数字が示されております。

次に就業人口についてでございます。やはり平成22年度となりますが第一次産業が3,200人、第二次産業が3,600人、第三次産業が7,800人ということで、合計1万4,800人くらいになっております。いずれも昭和60年に比べますと第一次産業、第二次産業はいずれも減少しておりますが、第三次産業は当時に比べまして1,000人ほど増加しております。

次に市民所得についてでございます。第一次産業、第二次産業は減少が続いております。高齢化による生産力の低下が課題となっております。今後、第一次産業の再生が本市の大きな課題となります。

次にバス利用についてであります。市民の足についてです。市内の移動手段は主に鉄道と車でございます。自家用車が増えておまして利用実態はこのとおり減少が続いております。ある路線は乗車者がゼロという区間もあります。高齢化の進歩によりまして弱者の生活維持にかかる交通手段の確保が現在求められております。続きましてこの交通体系の課題に対しまして、現在取り組んでいる内容を2点ほどご紹介いたします。その一つが予約乗合バスいわゆる「デマンドバス」です。特定の地域になりますが、タクシー会社のジャンボタクシーを利用して予約制に基づいて自宅までの送迎をしております。現在利用者は年間2,100人程度と安定しております。もう一つの取り組みをご説明申し上げます。予約市営バスということになります。これは合併前の旧宮守村の村営バスを継承しておりますが、利用者の減少がやはり続いております。ピーク時から比べますと年間1万7,000人を超えていた利用者が、現在は1万人を割っている状況であります。それを受けまして予約制をしているものでございます。予約がなければその路線は運行しないということになっております。

次に参ります。もう一つは情報通信についてであります。市内にケーブルテレビ網を整備しております。23年度末の加入状況は全体の81%を超えております。テレビ、それからケーブルテレビ電話、さらにはインターネットのサービスを展開しております。今後、この情報通信関係は医療・福祉の分野でなくてはならないものと捉えております。ただ課題もございます。旧遠野市のケーブルテレビ同軸ケーブルが559キロございまして、その更新が今後の検討課題となっております。

続きまして遠野市の財政状況についてでございます。概要はこの表のとおりでございます。平成17年の合併以来、順次社会資本整備を進めてまいりまして、23年度決算では200億円を超えております。地方債残高は196億8,700万円程度となっております。併せて財政の硬直化を少なくするための取り組みも行っておりまして、計画のもとに経常収支率を80.6%と少しずつではございますが、改善の方向に向っております。ただ財政力指数は依然0.25と弱い状況であることは変わりありません。

次に、これらの状況を踏まえまして遠野市の取り組みとしてご紹介申し上げるものであります。「遠野スタイルの創造」ということでタイトルを組んでおります。よく「遠野スタイルとはなんでしょう」という質問を受けますが、この表にありますとおり「総合力を結集し進化し続けるまちづくりをみんなとともに展開していくんだ」という考え方であります。「やれることからみんなで取り組もうじゃないかということ」でもございます。その一歩をまず踏み出していこうということでもあります。

次であります。具体的な取り組み例としてここでは地域づくり推進事業を挙げております。市内に9つの地区センターがございますが、この地区センターが地域活動をバックアップし、各コミュニティの活性化を進めていこうというものでございます。さらに具体的な例とすれば「遠野遺産認定制度」でございます。これは平成19年度から始まっております。「地域ならでは」が「遠野ならでは」になるものと大いに期待することです。現在、認定件数は124件となっております。

次に少子化対策の問題であります。平成14年度に市内から産婦人科医がいなくなっております。妊婦さんの不安をどう解消するべきなのか、行政としてやれることはまず徹底してやろうということで医師の協力の下でスタートしたのがこの事業でございます。ICT技術を介しまして近隣の産科医と妊婦を助産師が繋ぐという独自のシステムでもございます。さらに出産を取り扱いませんが、緊急搬送の体制として消防本部も加わっております。

次に社会資本の最たる道路ということになります。着々と整備が進められております。これまで社会資本のシンボルでございましたが、震災を契機に「命をつなぐ道路」という位置づけに変わってきてこの位置づけがクローズアップされてきております。

次に参ります。この4月に市内の8中学校を再編いたしまして3つの新設中学校が誕生いたしました。以前、第三セクターの取り組みで山田委員長から「新たな知の集結による協働体の創出によって地域課題の解決に望むべきだ」というお考えを示していただきました。この再編により、新たな可能性とチャンスが子どもたちに与えられることが大いに期待されているところでございます。

次に入ります。遠野市はご承知のように四季折々にそれぞれの年中行事が伝えられ現在に至っております。これらを大切に、磨きをさらに加えて、後世に引き継いでいく必要がございます。

次に、この12月に蒸気機関車が盛岡から釜石まで運行されることになりました。市としては、絶好の機会と捉え、まちづくりに繋げていくためのプロジェクト「SL 停車場推進事業」と銘打ち取り組むものであります。これはまちづくりに伝えていこうということで、現在現存するさまざまな中心市街地の財産をブラッシュアップをいたしまして新しい価値として生み出していこう、「古くて新しいものは光り輝く」と

いう考え方でそれぞれ取り組んでいるものでございます。この4月には、まちづくり再生担当の特命チームが発足いたしまして、包括的な取り組みを進めていこうということで始まっております。

最後になります。先人たちが残した大切な財産をさらに進化した地域総合力で後世に繋げていきたい、そして元気な永遠の日本のふるさと遠野を築いてまいりたいと思っております。

たいへん端折った説明で申し訳ございませんが、後は資料をご覧くださいと思います。よろしくお願いたします。

(2) 遠野市地域経営における検証指針について

○山田 委員長

ご質問があるかと思いますが時間も迫っておりますので、一通りご説明を進めていただいてから時間の範囲で質疑をということにさせていただきたいと思っております。

それでは続いて「遠野市地域経営における検証指針について」ご説明願いたします。

○佐藤 企画・秘書広報担当課長

それでは遠野市地域経営における検証指針についてご説明いたします。

遠野市ではこれまで、市民センターや地区センターを中心に河川清掃や市内一斉の町民運動会などを実施しながらまちづくりを進めてきました。その一役を担ってきたのは、各地域に組織する自治会で、その中には交通安全や防犯、老人クラブ、婦人会など、さまざまな役割を補完しています。しかし、加速する少子高齢化、人口減少の中では、これまでのような自治組織を維持することが困難となってきています。これは全国の過疎地域が抱える共通の課題であり、これまでの考え方を改めた組織づくりが必要な時期を迎えています。

当市では10年後、20年後の時代に即した「元気創造社会」を実現するため、「地域総合力の創造」をキーワードに組織、機能の見直しを進めてきました。昨年度まで検証を行った第三セクター等の検証は「行政と関係団体のパートナーシップの再構築」を狙いとしたものです。今回の検証作業は、市民組織の再構築を図りながら市民と行政の役割を改め「市民協働の強化」をねらいとしています。さらに第三ステージでは、関係団体や市民団体の新たな形に合わせた施策の再構築を進め、遠野に関わるすべての人が地域づくりを快適に進めることができるように転換を図ってまいりたいと考えております。

第2ステージとして位置付けた今回の検証作業は、「まちづくり手法の転換」を目的とします。これまでの高度経済成長期の人口構造、産業動向を背景としたものから、10年後、20年後に想定されるまちの姿に照らしたシステムの転換を行ってまいりたいと考えています。

検証の項目は次の3つです。1つ目は「コミュニティ」の検証です。「限界集落だから見直す」とか、コンパクトシティと言われるような「効率化の徹底」という視点ではなく、豊かな自然や文化、歴史などを後世に引き継ぐべき重要な存在として、今後どのような仕組みをつくり、不足する部分を何で補うかという視点で検証していただきます。2つ目は「人材育成等」の検証です。これは1つ目の「コミュニティ」と一体のものとして捉えております。元気で豊かな地域を築くためには、元気でつらつとした人材の確保、育成は欠かせません。平成23年度からは「地域づくり」「人づくり」「健康づくり」を目的に「地域活動専門員」を配置しています。このほか「人づくり」を目的とした遠野市教育文化振興財団がございます。この専門員や財団などの人材育成機関と合わせ、市民センターや地区センターについても、その機能、役割が適当なものであるかどうか検証していただきます。3つ目は「庁舎機能等」の検証です。平成23年3月

11日の東日本大震災により市役所本庁舎が倒壊しました。現在は市中心市街地のショッピングセンターの一角に事務所を設けサービスを提供しています。しかし、いつまでも現在のままではいけないことから、市民による検討会を組織し、市庁舎のあり方について議論していただいております。震災で被害を受けた自治体庁舎に対し、国から交付金による財政支援が行われるということもあり、庁舎建設について答えを出す時期にきています。超高齢社会に向けた庁舎の整備場所、規模、必要な機能等について検証いただきます。また、農業委員会や監査委員会など、これまで1自治体に1つずつ設置してきた行政組織についても、今後どうあるべきかを検証していただきます。

検証方法については、2つの組織を設置して行ってまいりたいと考えております。1つは本日設置しました「遠野市進化まちづくり検証委員会」です。2つ目が「市民ワーキング」です。「市民ワーキング」については、本日の基調講演にお集まりいただいた団体の代表者等から組織したいと考えております。総勢20人程を選定し、コミュニティ検証班と人材育成等検証班の2班、10人ずつに分けて検証委員からの意見等について考えていただきます。市民ワーキングで話し合われた内容を検証委員会に報告し、さらに検証委員会で議論を深めていただき、最終的には「報告書」という形でまとめていただきます。なお、山田委員長からはこの市民ワーキングと一緒に議論する場を設けて欲しいとの要望を事前に受けておりましたので、ワーキング設置後、日程等の調整を行った上で協働検証の場を設けたいと考えておりました。

現在予定している日程はご覧のとおりです。検証委員会は本日を含めて来年10月ごろまでに6回ほど持ち「報告書」を作成していただきます。次回の検証は「庁舎機能等」の検証です。8月ごろを予定しております。第3回は11月を予定しており、検証項目は「コミュニティ」です。第4回は来年5月を予定しており、検証項目は「人材育成等」です。第5回は来年7月を予定しており、市民ワーキングの検証等に対してご検討いただきます。最終回は来年10月を予定しており、報告書内容の確認を行った上で、市への報告をお願いしたいと考えております。

市ではこの報告書を基に内部で議論し、平成27年1月までに仮称ではありますが「地域経営計画」を策定し、地域コミュニティに対する見直し作業を具体的に進めていく考えです。この考えは、平成28年度からの遠野市総合計画基本構想の中にも盛り込んでいきたいと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。

(3) 遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会の提言書について

○山田 委員長

ありがとうございました。では引き続き「遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会の提言書について」の説明をお願いいたします。

○澤村 管理情報担当課長

それでは「遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会の提言書について」ご報告いたします。

先ほども説明がありましたとおり、本市は東日本大震災で本庁舎を失っております。現在、本市における庁舎機能につきましては、大きく分けて14の施設に分散化している現状です。このことを踏まえ、今後の市役所に望まれる庁舎機能と公的施設全体のあるべき姿について、市民の方々から広く具体的な提言をいただき、効率的な行政運営に進むことを目的とした「遠野スタイルによる庁舎機能の在り方を語る懇話会」を平成24年5月22日に設置いたしているところでございます。

委員には50人の市民の方々にお引き受けいただきまして、昨年5月30日の第1回全体会議から、①地域づくり、②産業振興、③保健・福祉・教育—の三つの分会構成によりまして、全体会議を4回、分野別分会を各3回開催しております。非常に熱心にご協議いただいております。今月27日にこの協議結果がまとまりまして、同日、河野好宣市民懇話会座長から市長に提言書の提出を受けたところでございます。

この提言書の主要なポイントといたしまして、はじめに庁舎の位置につきましては、「まちづくり」「利便性」「実現性」の観点から中心市街地に設置することが望ましいという点です。それから庁舎における機能でございますが、「利便性と効率的な庁舎管理を行う視点から行政サービスや行政運営の根底となる機能は集約することが望ましい」という意見でございました。なお、現在のスタイルが評価されている庁舎機能のことにつきましては課題や問題点が指摘されている庁舎等、総合的に検討いただいた上でさらに進化した庁舎機能に努めていただきたいという結論にまとめられています。

この提言の詳細につきましては、冊子にまとめた提言書にそれぞれ庁舎の普段の状況、各庁舎のポイントを整理した内容、それから庁舎機能の在り方、庁舎の位置、それから庁舎機能の集約について意見を集約しているほか、検討・協議の過程における各委員の意見等につきましても極力掲載しておりますので、後ほどゆっくりお目通しいただきたいと思います。

さらに今後の予定ではございますが、市ではこの提言を受けまして、この6月から提言に基づく庁舎整備に係る基本方針案の素案づくりを進めてまいります。8月の第2回進化まちづくり検証委員会には委員の皆様にご提示し検証を加えていただきたいと思いますと考えてございます。なお、あくまでも予定ではございますが、年内を目途として庁舎整備にかかる基本方針のまとめができればというように考えてございます。

以上説明を終わります。

(4) 意見交換等

○山田 委員長

はい、ありがとうございます。以上3点につきまして皆様からご質問あるいはご意見をいただきたいと思っております。

その前に私の方からお願いですが、今回コミュニティの問題等が出てくるかと思っておりますので市内の全域図というか、学区であるとか、地区センターの配置とその圏域とかそういったものがないと議論しにくいかと思っておりますので、それを用意していただければと思います。併せて、先ほど少しお話が合った「遠野遺産」のような主なものの分布も記述いただければと思います。それを見ながら議論しないとなかなかうまくいかないかなというように思いました。それはお願いです。

それからもう一つは、市民との会話の機会をというお話がありましたけれども、これはスケジュールの中で、どこら辺でどういう形でそういう場が用意できるのかも聞かせていただければと思います。

もう一つは、庁舎は大体皆さんご存知かもしれませんが、庁舎が今どうなっているかとか、今どういう状態でお仕事されているかということ把握されていない方もいらっしゃるかと思っておりますので、そこら辺の情報もなるべく早くご提供いただければと思います。

私からは以上でございます。

○大泉 委員

山田先生からお話のあったことに加えて、地図ですか地区センターとか自治会とかそういった組織がどのように配置されているのかがわかるものと、先ほど林先生のお話にありましたけれどもももとの小

学校区とか、中学校区とか、そういった区域がわかるような図を用意していただければと思います。コミュニティの検討に際しましては、今、自治会とか住民自治組織がどういう課題、問題をもっているのかというところの情報が事前にあった方がいいかなと思います。それを検討で深めながら解決していければと思います。その辺の情報の準備をいただけたらと思います。

○工藤 委員

コミュニティに関わるいろんな組織、市民センター、地区センター、行政区、自治会等の役割と具体的な活動内容、そして各組織の関係・連携がわかる全体像がわかりませんので、それを1枚の組織図のような図に書込んでいただければ助かります。

○小野寺 委員

おそらく自治会組織、コミュニティ組織を変えていくということは、それに伴って組織をおそらく変えていく可能性があるのではないかと考えます。例えば、林先生のフロントオフィスを作るとかというお話がありましたけれども、そういうお考えがあればそういうものを少し承りたいと思いますし、そうでなくてそういったものをゼロベースでこの中で議論するということになればそれはそれでやらなければいけないだろうと思うのですけれども、お考えを少しお聞かせ願いたいと思います。

○本田 市長

委員の皆さんに率直な形で現場を見ていただきながら、その中からどうすればいいかを議論していただければと思います。例えば、さっきもお話しました通り遠野には90の行政区があり90人の区長さんがおります。1票の格差とまでは言わないですけれども、25世帯の1行政区もあれば、600世帯を超える1行政区もある。これらをどう平準化していくか。といっても、地理的な、あるいは集落の構成によっては数だけで判断するわけにはいかないということ、そこを何か新しい仕組みとして機能させていきたい。それから正直な悩みとすると、実際リーダーと言われる区長さん方、民生委員さん方、保健推進員とかいらっしゃるが、どんどん高齢化していつて数が少なくなってきています。その辺のところをどのようにするかということ、あるいは、その地域を担う人材といったものをどのように育成していくのかということをやったり今のうちからやっつけていかなければならない。少し急かもしれませんけれども、今までの行政区という考えにも新たな発想を入れるとか、自治会というところも新たな発想を取り込むとか、そしていうところに情報通信技術を用いてネットワーク化するなど。先ほども小野寺委員がお話ししておりましたが、イノベーションというのは単なる「技術革新」のではない、掘り下げれば水脈があるのではないかという話。すごくいい表現じゃないかと思ってまして、委員の皆様からそういう発想と新たな仕組みづくりという視点でご検討いただければと思っております。

それから庁舎問題についてですが、実は先ほど触れてはいませんでしたけれども、一番の問題は財源でした。いくら財布を逆さにしても庁舎を建てる金は出てこないということで、毎年1億円ずつ貯めれば10年で10億になる、その分それに見合う庁舎にしようかということで腹をくくっておりましたが、総務省の方で特別交付税で措置をするし、起債も充当できるようにしたので、ふさわしい庁舎を建てなさいよという話もいただいておりますから、これは前倒しで行きたいなと思っているのです。そのときに、現在377人の職員、そのうち53人が消防職員ですから一般行政事務に従事しているのは324人、この数も300人台から200人台に入るのもカウントダウンが始まっているわけです。そういった状況で本庁舎にどういう機能を持たせるかというのがやはり地域づくりなのです。すべての機能を一箇所に集めてドンとした庁舎を建てる方が分かりやすいと思いますが、はたして本当にそれでいいものかどうか。例えば、本市には保健・

医療・福祉の各施策を総合的に進める「健康福祉の里」というのがございますが、すでに市民に定着しております。ですから、そのような状況の中で、集約させる機能と現状のまま維持する機能をどうするかというものを考える必要があります。関係する団体なども今度整備しようという庁舎の中うまく入れないだろうか、というようなことも考えてみようかなと思っておりまして、少し回りくどい言い方をしましたけれども、やはり一つの新しい仕組みをつくっていききたいなとそのような思いであります。

○稲葉 委員

今のお話しと関連するのですが、この委員会で検討する課題の意図はシートの03のところ三つ挙げていただいている、人材育成というのがはっきりとわかりにくい。どのような人材を持って「地域を担う人材」と言っておられるのか。それは行政職員を含めた人材なのか、地域にいる民間の人の人材なのか、それらも一体的にしてどうやっていけばいいか、というのをコミュニティの検証と一緒に考えていけばいいのかというようなところで、人材と一口に行ってもなかなか少しポイントがしぼりにくいなと思ったところです。

市庁舎の機能検証が2、3日前に住民の方々から出されておりますが、提言の中にもありました「うまくいっている機能は残して集約した方がいい」という報告が上がってきているということで、「それらも含めた地域コミュニティ」ということなのだろうと思っています。大きくはテーマは分かったのですが、一つ一つ私たちが検討していくときにやはりテーマを絞って、これについてこういうことを議論してほしいというのがあれば考えやすいと思います。一つの議論がほかの二つのテーマとも関連してくる、その辺のところの実態がどうなっているかという資料にプラスして、こういう視点で主に意見を出してもらえるといいなというようなところを少し整理していただく。そうすることで、私たちの頭の中が整理しやすくなると思いますし、いろいろ議論していくと結局は同じところに行きあたるのかなと思いました。

コミュニティも20年後、30年後といわれても正直言って想像ができないので、今こうなっていて良いところは生かしていけばいいと思います。その中で課題はこうだからこうしていけばいいかということだと何となく具体的に考えていけるなと思っていたりするので、その辺も少しどういう視点で議論していけばいいかというのをわかりやすく出していただけるとありがたいと思いました。よろしく願いいたします。

○山田 委員長

今のお話に関連して事前に少しお願いしたいことがあるのですが、今回三つの大きなテーマがあるのですが、それぞれかなり多様な内容を含んでいますし、我々も十分認識しないと理解しないと議論ができないというところがありますので、これは事務局の方も事前にいろんなものを用意していただく、宿題があると思いますし、それから我々もそれを事前に頂いて勉強する時間も必要だなと思いますので、限られた回数の中できちんとこれだけこなしていくためには、そういう時間と宿題というのを少し綿密に組み立てないと「虻蜂取らず」という結果になってしまう心配もありますので、そこらへんは十分ご検討いただければと思います。

○本田 市長

平成の大合併という中で、さまざま基礎自治体が再編されたのですが、情報誌やホームページ等を見ても、この合併がどのようなメリットをもたらしたか、どのようなデメリットがあったのか。その中で基礎自治体はどのように位置付けられるのか。3,300近くあった基礎自治体が1,700台まで再編になったという中で、権限が委譲されたといっても、広域自治体としての権限や役割はどうかということとはほと

んど総括されていないのです。整理されていないのです。今度私どもの方にも社会福祉法人の指導監査が下りてきました。私の方に上がってきたのは専門職がないからそういう専門の職員を非常勤で採用したいという話だったのです。「とんでもない。そういう形でどんどん職員を採用していったらとんでもないことになる。あなたたちはきちんと給料もらっているのだから勉強しなさい。勉強してそのくらいの体力をつけなければやっていけない。何かあれば非常勤、嘱託、臨時職員で対応していたら、職員定数を厳しく見直しているうちにとんでもない方向に走ってしまう。だから私は絶対にそれを認めない」と話しました。そのように権限だけではなく、それを受けてきちんと対応できるような仕組みをつくらなければならない。権限だけが降りてきて「後は地方分権なので市町村です」と言われる。とんでもないというのが私の考えです。したがって、行政委員会もこのままでいいのか。農業委員会も、農地というものの中における農業委員会と位置付けられるのか。3万人の人口の中で、教育委員会といったものがいかにスピードを遅くしているのか。人事一つ取ってみても教育委員会と議論しなければ内示できません。そういう状態なわけです。そういう状態の中で、委員会制度なども合併という中で再編をしないというのであれば、広域的なネットワークの中でこういう監査員制度とか、農業委員会制度だとか、あるいは教育委員会制度だというのを考える。それぞれの基礎自治体で同じ業務を行っているわけですから、同じ法律で同じことをやっているわけですから、近隣の市町村で連携を取って、プロの監査委員さんにきちんとお願いして、そしてきちんと監査してもらおうと。そうすれば監査委員の人件費等もかなり圧縮できる。我々の足元にもっともっと見直さなければならないものがある。けれどもそれを法律が立ちはだかるものですから、なんとか風穴をこじ開けたいなと思っております。

この庁舎機能の中に、行政委員会についても委員の皆様からご意見をいただければそれを一つの武器にして、県や国にも訴えたいと考えております。

実は「教育委員会の権限を市長に」ということで議論しておりますが、文部科学省はかなり抵抗しております。先生方、教育委員、教育委員会としてちゃんとやっている。その代り、維持管理からさまざまなことについては市長が全部責任を取るから存分に子どもたちと向き合ってくれと言っているのですけれども、なかなかそれも通らないのです。でもこの制度もかなり限界が来ていると私は思うのです。教育委員会制度そのものがかなり形骸化しているわけですから。委員会を開いて、資料を作って、議事録を作って、もう教育委員会の事務局はそういうのばかりです。言い方が悪いけれども。だったらそれが何かに活かされているかと言うと全然活かされていない状態です。ですから、もう少しシンプルな組織にすれば我々でもやれることはたくさんあるというようなことなのです。

委員の皆さまからも、一つお知恵をいただければと思います。

○山田 委員長

三つ目の問題もただ建物の問題だけではなくて、行政システムと申しますかそういったものも含まれているのでというお話でしたね大変ですね。

○北原 委員

ワンテーマごとに結論を出す委員会とお見受けしましたが、先ほど委員長からもございましたが、例えばコミュニティのテーマに絞って読ませていただくと、10年後20年後を視野にというような課題を与えられておりますが、現状の自治会などのコミュニティ組織が10年後20年後にどうなると遠野市さんが見通されているのかを出来れば知りたいと思います。例えば今日の講演ですと、事例発表を行った上宮守文化振興会のお話の中で、アンケート調査を行い、10年後にはこれくらい減るのではないかという推計デー

タが出ていました。こういったものは、いわゆる自治会とかそういったものについてもある程度見通しと
いうかについて、すでに出されているのか、そういったものがあれば検討の素材として参考にしたいと考
えています。

○菊池 経営企画部長

春先に国の人口研究所から出ましたデータを基づきまして、解析を進めておりました。事務局も整理を
精力的に行っていかなければならないということをご指摘のとおりです。いずれご指摘の部分については
お示ししていきたいと思っております。さまざま盛りだくさんの課題を抱えておまして、今後、遠野市
はあるべきデザインとして今回の機会を通じて作り上げたいと思っております。そのデザインの方に向か
うための推進力、あるいは下支えをする組織として、地域コミュニティをどのようにしていけばいいのか。
先ほど人材育成の検証の部分で稲葉委員からご指摘がございました。私とすればコミュニティ検証と人材
育成等の検証は一つのくりで行えないかなと思っておりました。2点目の部分を分けた理由は、トオノピ
アプランというのがございまして、小学校単位に地区センター、小学校、中学校というのを一箇所に集積
した経過がございます。していない部分もございまして、それが現時点では制度的に合わなくなってきて
いるという部分もありまして、課題的には3つにくくってしまいましたが、1点目2点目は包括的に取り
組まなければならないと思っております。その上で、先ほど図面に落とし込むとか、90の行政区のシミュ
レーションはどうなっているのか、それについてもお示しをしながらそういった観点で検討をお願いして
いこうということでございます。

○山田 委員長

ありがとうございました。

○小野寺 委員

先ほど説明いただいた「遠野スタイルによるまちづくり 2013」で人口の推移が出ていましたけれども、
平成52年に1万7,000人強の人口になりますとありました。今、イノベーションという社会変化を起こ
すためにはバックキャスティングという手法を取る場合があります。それは例えば平成52年にこういう人
口規模になります、そのためには遠野市として今からどのようにやっていくか、今のままの延長の取り組
みであれば平成52年の世の中に合わなくなってくるけれども、平成52年の世の中からどうやって現状と
合わせていくかという議論もされるようになってきております。そのような取り組みをお考えなのか。ま
た、その将来は平成52年なのか、もう少し前なのか。

また、今日、庁舎というお話もありましたからおそらく平成52年ごろにどのような遠野市役所になるべ
きのかなと聞いておりましたけれども、そんなイメージでのお話でよろしいですか？

○本田 市長

私はその典型的な団塊の世代ですが、今2040年までいろいろシミュレーションがされていますから、そ
うすると今の団塊の世代(65歳くらい)が高齢化率をグッと上げるあたりがピークで、後はだんだん平準
化しそうです。だから、その辺りにどういうことをイメージするかということだと思っております。

○小野寺 委員

十分な回答はできないかもしれませんが、ある程度それをイメージとしておきながら、そのとき
どういうコミュニティであって、そのときにどういう庁舎であって、誰がいいのか、というところを提言
できればということで理解してよろしいですか？

○本田 市長

職員にいつもメールでさまざまな思いを発信していますけれども、「後 500 年経てば遠野はバナナの生産地になるそうだよ。遠野リンゴではなくて遠野バナナになるそうだよ。だからそういったことを考えれば 500 年と言ったってすぐだよ」というようなことを発信しましたけれども、ある本を読んでいたら岩手県あたりはバナナの北限になるそうです。リンゴは温暖化で北海道に行ってしまうそうです。そこまでは目的にしなくてもいいですが、やはり 25 年後辺りが一つのイメージとしてはよろしいのではないかと考えています。そのときをしっかりとイメージした提言。ただこの部分では、我々がそういったことを議論しても、道州制の問題も含めて国づくりのあり様がどうなってくるのかということもあります。そういったものも十分考えながらと言っても、道州制になれば今回の議論で出された答えが大きく変わるかもしれません。一説では、道州制になればなるほど旧村単位がますます大事になってくると言われております。明治の村が蘇るとも言われます。これまでであったものをしたたかに蘇らせようではないかというやり方もあると思います。そしてボランティアで村長さんがいればいい。というのも一つのやり方ではないかなと思っています。だから「集落を捨てる」というのは、私はあってはならないと思っています。

○吉野 委員

私は、人口が減るだろうということは前提に考えなければならないと思います。そうなれば市役所の定数も当然落としていかざるを得ないだろうと思っています。今は復興関係で一時的には少しいレギュラーな状態ですが、基本的には財政規律を守りながら財政規模を少し小さくしながら市民の安心安全を守る責任が役所にあるわけです。

そうしたら、例えば遠野市自体の面積も減ってくればこれは話は楽で、「人口も減って、役所も小さくなるから遠野市の面積も小さくしようよ」と言えればいいわけですが、現実的にそれは無理なわけで、今 825.62 平方キロメートルある遠野市の面積を前に比べて人口半分になったのだからどこか半分もらってもらおうというわけにはいかない。でも、825 平方キロメートルという面積は広くて、東京 23 区は 660 くらいで、その 23 区がすっぽり入り、なおかつ 23 区だったら 800 万人の人口が住んでいるところに遠野は 1 万 7,000 人の人口でこれを維持していこうという話にならざるを得ない。なおかつ、林野は放っておけばいいか、林野は人が住まないのだから放っておけばいいかと言うと、それはやはり安心安全の面から一番危ない考えであって、土砂災害であるとか、あるいは獣害、あるいは火事の問題というのがいつでも目の前にありますので林野も放っておけない。そうすると今までの組織の作り方で守れるのかとなれば、半減した人口、職員も減る中で、これまでのシステムで多分守りきれないだろうから、新しいシステムを作らないと一人一人の安心安全が非常に脅かされますよと、市民の皆さんも十分それはお考えになって一緒にこれは考えていきましょうよということで、その中にある仕組みを少し変えていこうということで理解をいたしました。そうは言っても根本的に人口は増えないわけですから特効薬はないわけで、やはり先ほどお話が合ったように 90 ある行政区、数はどうしても非常に小さい行政区から 500 を超える行政区まであり、これまではやってきましたという報告がありました。それは多分おそらく理由があって、本来であれば行政区こんなはずれているのだから小さくすればいいではないかとか、まとめればいいではないかという話があるのでしょうけれども、多分行政区の下には集落があったり、自治会と行政区の違いはよくわからないのですが、集落もっと小さくなっていてそこでまとまればいいのかもしれないのですが、もう集落を合併するということはあまりやってこなかったし、現実的にその市民感情から見て難しいと思うのです。それでは、集落の何を一部の上位の広域的な団体にお任せをして、集落は逆に何を守ってもらうのかと。要するに「地域の機能の全部をフルセットで同じところで全部守れ」というのは

地域で守って、これはいわゆる中間的なもので市役所が守るというような、非常に仕分け的な考え方をしないと本当に1万7,000人で23区の大きさを守るとするのは相当な大問題だと思って聞いておりました。

ですので、すぐに行政区を変えるどのとはいかないけれども、市民の皆様とこれだけの広さをこれだけの人数で一緒に守っていくためにどうしますか。あるいは、市としてはこういう考えがあるけれどもどう考えますか、という共有意識を早く持ってもらいたいなと思っております。

○山田 委員長

今のはなしで大事なのは、コミュニティを表面的に考えるのではなくてある程度、迅速的に再編していかないと解決できないよということ、そのためには市民の皆さんとの対話をしっかりとやっていく、そういったご指摘があったかと思います。どうもありがとうございました。

時間が過ぎましたがどうしてもという方はございますか。よろしいですか。それでは今日はこのぐらいにしておきたいと思います。

特にはまとめは申し上げませんが、事務局から丁寧な議事録が届くかと思っておりますので内容につきましてはご確認いただくということと、それから今日は議論の中で見えてきたのは委員会の開催だけでももけりがつかなくてお互いに宿題が結構ありそうだとすることを少し頭に置いていただいて、今後の委員会をお願いしたいと思います。

○本田 市長

「この地域が一生懸命取り組んでいますよ」というようなさまざまな取り組み事例については、新聞とかあるいはテレビ等で取り上げられたようなものにつきまして、事務局を通じてきちんと情報を共有できるように対応したいと思っております。そのような中から、市内の動きを常に先生方にもリアルタイムで把握できるような形で対応したいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

6 閉会

○菊池 経営企画部長

それでは以上を持ちまして第1回遠野市進化まちづくり検証委員会を閉会させていただきます。

たいへんお疲れ様でございました。